【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】令和7年4月4日(2025.4.4)

【公開番号】特開2023-178773(P2023-178773A)
【公開日】令和5年12月18日(2023.12.18)
【年通号数】公開公報(特許)2023-237
【出願番号】特願2022-91660(P2022-91660)
【国際特許分類】
　Ｅ０６Ｂ　9/52(2006.01)
【ＦＩ】
　Ｅ０６Ｂ　9/52　　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】令和7年3月27日(2025.3.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に嵌め殺し式に張設するためのスクリーンであって、
　前記スクリーンは、左右の縦辺に取り付けられた左右の縦取付部材、及び、上下の横辺に取り付けられた上下の横取付部材を有していて、前記縦取付部材及び横取付部材は、並行する一対の弾性係止片が形成された板状のプレート部と、前記スクリーンに取り付けるための帯状をした取付部とを有し、前記左右の縦取付部材の一対の弾性係止片を、前記スクリーン枠における左右の縦枠杆に形成された係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材の一対の弾性係止片を、前記スクリーン枠における上下の横枠杆に形成された係止溝に係止させることにより、前記スクリーン枠に張設可能である、
　ことを特徴とするスクリーン枠に取り付けるスクリーン。
【請求項２】
　前記縦取付部材及び前記横取付部材における一対の弾性係止片は、前記プレート部に連なる脚部と、該脚部の先端に該脚部に対して傾斜した状態に連なる頭部とを有し、前記頭部が前記スクリーン枠の前記係止溝に係止することを特徴とする請求項１に記載されたスクリーン。
【請求項３】
　前記一対の弾性係止片に形成された２つの頭部は、互いに同じ方向に傾斜していることを特徴とする請求項２に記載されたスクリーン。
【請求項４】
　前記２つの頭部のうち、先端が前記係止溝の内側を向く方向に傾斜する頭部の基端部には、該頭部を傾斜方向に延長することにより顎部が形成され、該顎部が前記係止溝に係止することを特徴とする請求項３に記載されたスクリーン。
【請求項５】
　前記左右の縦取付部材及び上下の横取付部材の何れか一方又は両方には、前記一対の弾性係止片の長さ方向の両端部を部分的に切除することにより、該一対の弾性係止片がプレート部に形成されていない係止片切欠部が設けられていることを特徴とする請求項１に記載されたスクリーン。
【請求項６】

前記係止片切欠部における前記プレート部は、前記スクリーン枠の縦枠杆又は横枠杆に当接して前記係止溝を覆うことを特徴とする請求項５に記載されたスクリーン。

【請求項７】

左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項１から６の何れか１項に記載のスクリーンを嵌め殺し式に取り付けるスクリーンの取付構造であって、

前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、前記係止溝がそれぞれ形成され、

前記左右の縦取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、前記スクリーンを前記スクリーン枠に取り付け可能とした、

ことを特徴とするスクリーン枠に対するスクリーンの取付構造。

【請求項８】

左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項１から６の何れか１項に記載のスクリーンを嵌め殺し式に張設してなるスクリーン装置であって、

前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、前記係止溝がそれぞれ形成され、

前記左右の縦取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、前記スクリーンが前記スクリーン枠に張設されている、

ことを特徴とするスクリーン装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

また、本発明によれば、左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項１から６の何れか１項に記載のスクリーンを嵌め殺し式に取り付けるスクリーンの取付構造が提供される。

前記取付構造において、前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、前記係止溝がそれぞれ形成され、前記左右の縦取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前記係止溝に係止させることにより、前記スクリーンを前記スクリーン枠に取り付け可能としている。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

更に、本発明によれば、左右の縦枠杆及び上下の横枠杆からなる矩形のスクリーン枠に、請求項１から６の何れか１項に記載のスクリーンを嵌め殺し式に張設してなるスクリーン装置が提供される。

前記スクリーン装置において、前記左右の縦枠杆の互いに対向する内向面、及び、前記上下の横枠杆の互いに対向する内向面に、前記係止溝がそれぞれ形成され、前記左右の縦取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記左右の縦枠杆の前記係止溝に係止させると共に、前記上下の横取付部材における前記一対の弾性係止片を、前記上下の横枠杆の前

記係止溝に係止させることにより、前記スクリーンが前記スクリーン枠に張設されている。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
　前記スクリーン枠３は、図１、図９及び図１０から明らかなように、アルミニウム合金製の左右の縦枠杆３ａ，３ｂ及び上下の横枠杆３ｃ，３ｄによって矩形枠状に形成され、建物開口部の前記障子４より室内側の位置に配設されている。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
　前記左右の縦枠杆３ａ，３ｂの互いに対向する内向面３ｅには、図２から明らかなように、前記スクリーン１の左右の縦辺１ａ，１ｂに取り付けられた縦取付部材８を係止させるための縦係止溝６が、該縦枠杆３ａ，３ｂの全長に渡ってそれぞれ形成され、前記上下の横枠杆３ｃ，３ｄの互いに対向する内向面３ｅには、図３から明らかなように、前記スクリーン１の上下の横辺１ｃ，１ｄに取り付けられた横取付部材９を係止させるための横係止溝７が、該横枠杆３ｃ，３ｄの全長に渡ってそれぞれ形成されている。
　なお、以下の説明においては、前記縦係止溝６及び横係止溝７を、単に「係止溝」と呼ぶこともある。

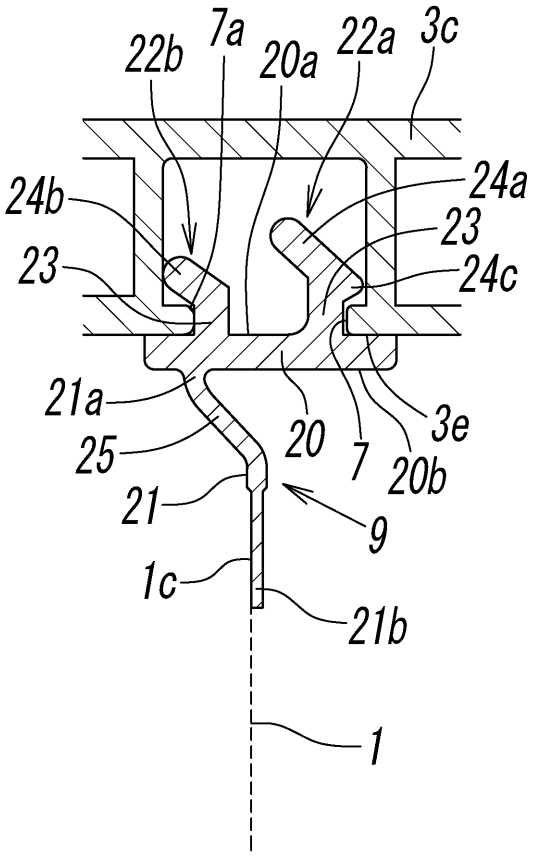
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
　前記一対の弾性係止片１２ａ，１２ｂは、前記プレート部１０の外側面１０ａに連なる脚部１３と、該脚部１３の先端に該脚部１３に対して傾斜した姿勢で連なる頭部１４ａ，１４ｂとを有し、該頭部１４ａ，１４ｂが前記縦係止溝６の溝縁６ａに係止するものであり、前記一対の弾性係止片１２ａ，１２ｂに形成された２つの頭部１４ａ，１４ｂは、互いに同じ方向に傾斜している。また、前記２つの頭部１４ａ，１４ｂのうち、一方の弾性係止片１２ａに先端が前記縦係止溝６の内側を向くように形成された頭部１４ａの基端部には、該頭部１４ａを傾斜方向に延長することにより顎部１４ｃが形成され、この顎部１４ｃが前記縦係止溝６の溝縁６ａに係止するようになっている。

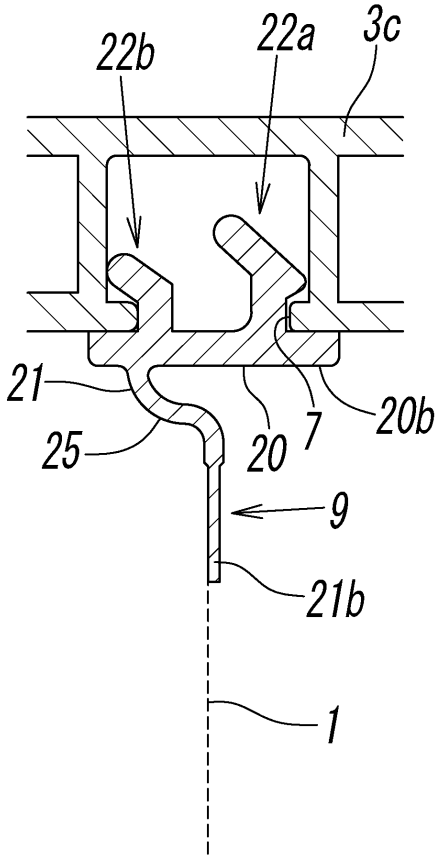
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
　前記２つの頭部２４ａ，２４ｂのうち、一方の弾性係止片２２ａに先端が前記横係止溝７の内側に向けて傾斜するように形成された頭部２４ａの基端部には、該頭部２４ａを傾斜方向に延長することにより係止用の顎部２４ｃが形成され、この顎部２４ｃが前記横係止溝７の溝縁７ａに係止するようになっている。

【手続補正８】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
　前記一対の弾性係止片２２ａ，２２ｂを前記横枠杆３ｃの横係止溝７に係止させるときは、該一対の弾性係止片２２ａ，２２ｂの頭部２４ａ，２４ｂを前記縦係止溝７内に挿入し、そのまま該係止溝７内に強く押し込むようにする。そうすると、前記一対の弾性係止片２２ａ，２２ｂが、互いの間隔が狭まる方向に一旦弾性変形したあと、頭部２４ａ，２４ｂ全体が前記縦係止溝７内に挿入されることにより復元し、前記頭部２４ａ，２４ｂが前記横係止溝７の溝縁７ａに弾性的に係止する。このとき、前記プレート部２０は、前記横枠杆３ｃの内向面３ｅに当接することによって前記横係止溝７を塞ぎ、虫が進入する隙間の形成を防止する。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
　このように、前記スクリーン１の左右の縦取付部材８，８の取付部１１及び上下の横取付部材９，９の取付部２１にそれぞれ弾性屈伸部１５及び弾性屈伸部２５を設けたことにより、前記スクリーン１を前記スクリーン枠３に張設する際に、前記弾性屈伸部１５，２５の弾性的な屈伸によって該スクリーン１に左右方向及び上下方向の張力が自動的に付与されることになり、その結果、該スクリーン１を、前記スクリーン枠３に皺や弛み等が生じない状態に簡単に張設することができる。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
　ここで、前記構成を有するスクリーン１を前記スクリーン枠３に張設するときは、例えば図６及び図８に示すように、始めに、上下の横取付部材９，９にそれぞれ形成された一対の弾性係止片２２ａ，２２ｂを、上下の横枠杆３ｃ，３ｄの横係止溝７，７内に押し込んで２つの頭部２４ａ，２４ｂを該横係止溝７の溝縁７ａに弾力的に係止させたあと、左右の縦取付部材８，８に形成された一対の弾性係止片１２ａ，１２ｂを、図４に示すように、前記左右の縦枠杆３ａ，３ｂの縦係止溝６，６内に押し込んで頭部１４ａ，１４ｂを該縦係止溝６の溝縁６ａに弾力的に係止させるようにするが、その際、前記左右の縦取付部材８，８の全長に渡って一対の弾性係止片１２ａ，１２ｂが形成されていると、該縦取付部材８，８の上下両端部付近において、前記弾性係止片１２ａ，１２ｂが縦枠杆３ａ，３ｂに強く接触して不規則に変形させられるため、該弾性係止片１２ａ，１２ｂを前記縦係止溝６，６内に押し込むことが困難になる。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図６
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図６】



【手続補正１２】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図７
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図７】